



～あふれ出る湧き水と瑠璃色の水辺の町～

針江・霜降



はりっしも

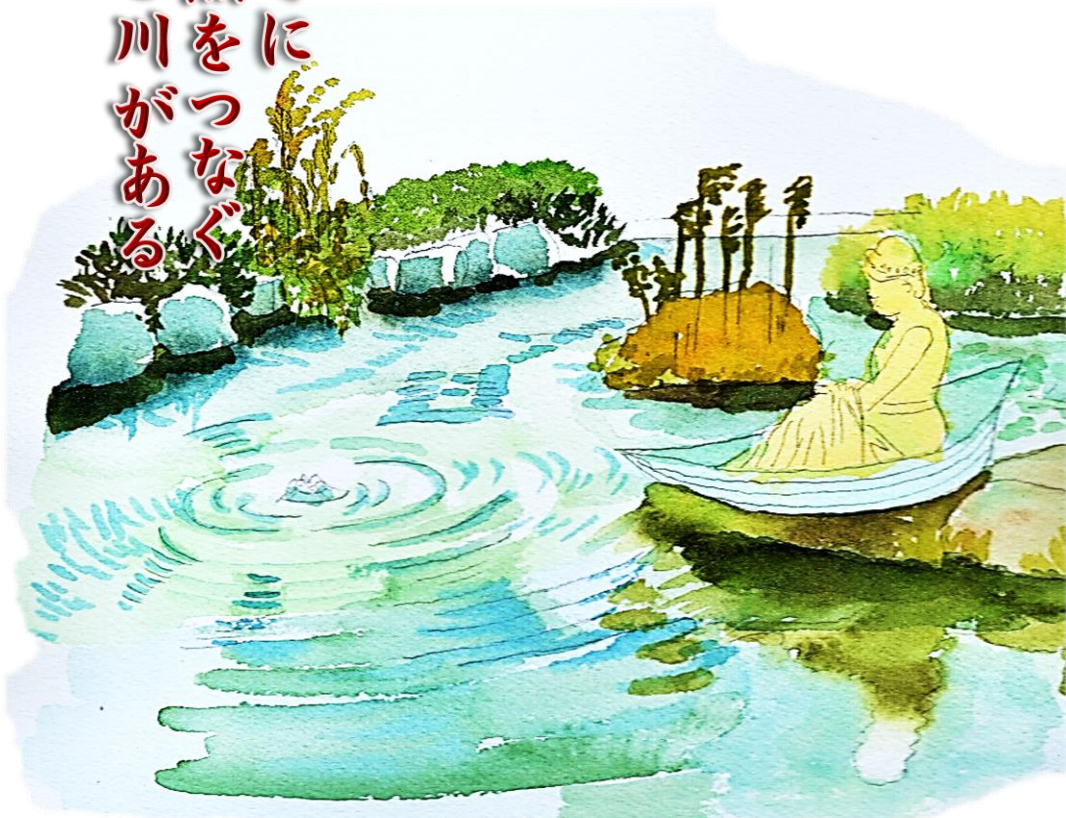
Harishimo vol.16 2023 (令和5年) 3

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会

Message

針江・霜降地域は国の「日本遺産」・「重要文化的景観」の選定を受けています。

湧き水と自然の町に
小さな川をつなぐ
川がある

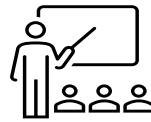


霊鷲山 正伝寺 亀の池

重要文化的景観「高島市針江・霜降の水辺景観」の重要な構成要素「亀の池」。そのいわれが、正伝寺に伝わる御縁起に記されています。伝教大師が三体の薬師仏を作り、一尊は叡山中堂に、二尊は湖に…。その一尊が霊亀に乗って平澤の池（亀の池）より上られたと。

御縁起
抑々壇上厨子内安置
三奉の薬師如来の尊像八
ツモ傳教大師御作り其
甲来ヲ尋子奉ニ日本三薬師
佛一尊ヲ傳教大師或時三
体御佛ヲ作り奉ニ摺願ヲ
立ツヤシト時ニ松尾大明神御
告ケヨリ叡山八部尾下ニ於テ
一ツ霊木ヲ得玉ク不思議ニ哉
青鬼黄鬼ニ鬼神則霊薬
ヲ守護シ大師告ク此霊
木ヲ以テ三体御佛ヲ作り末世
ノ衆生ヲ救ハセ玉ト言ヒ子ノ鬼

令和4年度事業活動報告



三つの調査事業を進めています

「針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会」

★かばた
★河川
★民俗文化財

令和4年度から新たに文化庁及び高島市の支援を受けて、カバタ調査、河川調査、民俗文化財調査、3つの調査事業を進めています。当地域でも少しずつ空き家が出てきたり、少子高齢化が進み、にぎやかな昭和から平成のはじめの頃とは、ずいぶん様子が変わってきました。

かばた、河川、民俗文化財も、かろうじて一昔前のかたちが残っていますが、家を建て替える時にかばたを無くされたり、美しい石垣の川がまっすぐなコンクリートで固められたり、水辺のお地蔵さんが失われたり、その使われ方や水との接し方は大きく変わってきています。

今年度は、これまでの大学や研究機関、有識者の調査をふまえながら、協議会役員自ら歩き、自分たちの目で調査を進めています。子どもの頃からの断片的な記憶をつなぎ合わせる場面もあり、すっかり変わってしまっていること、今も変わらずに残っていること、一つひとつに新鮮な驚きがあります。そして、地域の水系の成り立ちを把握し、水を巧く利してきた先人の知恵を垣間見る機会となり、期待以上の価値があるように思います。

かばた・湧水の活用、河川水質や生態の計測観察データなど、各調査のまとめはまだ先になりますが、継続的に調査を行い、貴重な湧水環境と「水と生きる」暮らしを守り継承していきたいと考えています。各調査について皆様のご協力をあらためてお願い申し上げます。

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会
会長 足立 亨

川に関心を持って接しているおかげ

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会 副会長
針江区长 北野 俊朗



高島市内では重要文化的景観保存地区が3か所あります。「海津・西浜・知内の水辺景観」、「大溝の水辺景観」と「針江・霜降の水辺景観」です。海津地区では石積みと街並みを活用して観光の資源として集客を図ろうとしており、大溝地区においても同様に街並みを活用して観光客の招致を図って地域の活性化を図ろうとしています。当地区の取り組みは古くからある湧水や水資源を守って行こうという取り組みを行っています。

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会では、令和4年度より地区内のカバタや河川の調査を実施しており、調査結果をお知らせするまでにはまだ時間がかかるようですが、針江大川・小池川は以前より藻の繁茂状況が早いように思いますし、また国道161号線(バイパス)より下流においては状況が一変して、年明け以降半年ほどは藻が全くない状態となる事が毎年のようにみられるようになりました。

防災面では気候の変化により突然の大雨に見舞われる事が何度かありますが、毎年4回の川掃除を実施しているおかげで、針江大川・小池川が氾濫するような事がないのも皆さんが川に関心を持って接しているおかげだと思っております。環境を壊すのは簡単な事ですが、一度壊れると二度と元の状態に戻りません。今ある環境を大切に守っていききたいものです。



「お地蔵さん」と「水の神様」に感謝!

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会 副会長
霜降区长 海東 弘



霜降区には、石垣、川底から自然に湧く「水」が豊富です。特に中ずしという私の家の近くの川は、どこからともなく湧いて大きな川となり本流へ勢いよく流れています。小学生の頃は、母親が洗濯物をすすぎに行っていたことを思い出します。この川の中や側のあちらこちらに「お地蔵さん」がおられ、お守りいただいていると感謝しています。

針江地域では、湧水を利用して、毎日朝には顔を洗い、食事の支度、食事後の洗い物、お風呂、洗濯などされている家も多いようです。当たり前のようにも感じる水は、無ければ生活が出来ない大切な水です。

平成29年の水辺景観まちづくり協議会主催の地域座談会に山川さんに誘われ何気なく参加しました。その中で『カバタには「水の神様」がおられる』と話されていたことを記憶しています。「水の神様」がカバタを、家庭を、地域を守っていただいていると思えました。本当に「水の神様」にも感謝です。

ただ、小学生の頃から考えると川の水量が少なくなっていて、湧水の量も減ってきているようにも感じますし、魚やザリガニ等の生き物も少なくなっています。今や水も買って飲む時代、これまで受け継がれてきた水の文化、暮らしの保存・継承に地域の皆さんとも力を合わせ取り組んでいきたいと思っております。



はりっしも探索



川の水質を調べる事の重要性について

河川調査班 班長 青木 博

■川を見ていると、急にカニや魚が大量に死んでいたり、川の水が急にどす黒くなったり、また特定の場所では藻がいつまでも生えてなかったり、湧水の量が異常に少なくなる等の色々な変化に気づきます。これらが自然に即した変化ばかりであれば良いのですが、自然以外の要因により引き起こされているのではとの懸念があります。これらの事を明確にするためには、まずは毎日流れている川の水質、量などが季節によりどのように変化しているかを調べる必要があるのでは？との意見がでてきました。

そこで以前からこの地域で河川の調査をされていた滋賀県立大学の小泉尚嗣教授にご指導を受け、針江・霜降区に流れ込む河川や湧水の水質、水量等を2ヶ月に一度、区内9箇所の地点でデータ採取していき事になりました。この調査は昨年9月からやりはじめ、既に4回実施しています。加えて、前述データ採取とは別に両区内にある河川の数カ所の地点で河川の水質(水、藻、生物等)を1ヶ月に一度の周期で定点撮影した画像、動画も蓄積していきとしています。

これらの調査を複数年継続実施し、そのデータを整理することにより、河川の水質や量、藻や生物の季節ごとの自然な変化が把握でき、逆に自然以外の要因による河川の変化をいち早く気づき川への悪影響を未然防止する事ができれば、次世代の子供達にこの豊かな水を受け継げるのではないかと考えています。

「水辺の祈りと暮らし」

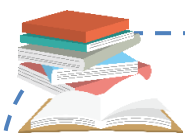
有形民俗文化財調査



私たちの地域には、豊かな水への感謝と畏敬を表す有形民俗文化財があちこちに点在しており、古から連綿と続く祈りと暮らしの文化があります。

透き通る川中にたたずむ石仏、水辺の小さな祠、そして、愛宕さん、秋葉さん、観音さん、行者堂(重要な構成要素)など、今も大人衆や愛宕講、観音講などによって守られています。庚申さんや寺跡の地蔵堂など継承が難しくなっているものも出てきています。

本調査では、「水の文化」を形成してきたこの地域の成り立ちや、人々の信仰を集めてきた寺社や仏像・石碑のいわれなどについてもひととき、伝承していければと思います。



針江・霜降の水辺景観資料室

定期公開中!

針江公民館2階(旧さつき文庫)

■公開日時/毎月第3土曜日 午後1時30分~4時
※公開日時は変更になる場合があります。

針江公民館前にてお知らせします。

★別途、見学をご希望の方は、協議会役員までお問い合わせください。

資料室では、針江・霜降の水辺景観関連の資料・文献、古文書や絵図、当地域の研究者や学識者の研究論文、その他、新旭や高島市、滋賀県の歴史や風土にかかわる書物などを所蔵展示しています。

水辺景観の関連資料を募集中!

■重要文化的景観の関連資料、地域の古い写真や古文書、文献記録類など、公開やご寄贈いただけるものがありましたら、協議会役員までお知らせください。

はりっしも information

*当協議会は、私たちの大切な「水の文化」を「守り、伝え、繋ぐ」活動を進めています。

■カバタの「保存修理」「追加登録」、重要文化的景観の整備活用等のご相談、及び「カバタ調査」「河川調査」「文化財調査」についてお問い合わせは当協議会の役員までご連絡ください。



*重要文化的景観に選定された際に重要な構成要素として認定されているカバタ(45件)などを保存修理・修復する場合は、国から経費の補助を受ける制度があります。

令和4(2022)年度 針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会 役員

会長 足立 亨 副会長 北野俊朗(針江区長) 海東 弘(霜降区長)
〔針江〕前田豊彦 伊藤 昭 高田一雄 三宅 進 高橋正通 森田茂之
〔霜降〕山川 隆 青木 博 山川三津浩 藤本徳治

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会の
インフォメーションがホームページとFacebookで見られます。
<http://harishimo.jp/>

